



# 木の家だいきの会 通信

2017年5月発行

特定非営利活動法人 木の家だいきの会  
E:Mail: office@kinoie.org  
URL: http://www.kinoie.org  
facebook:  
http://www.facebook.com/NPO.KinoieDaisuki

■東京事務所 & 木の家づくりの相談室  
〒102-0081 東京都千代田区四番町 3-10 番町 MK ビル 301  
TEL 03-6261-2970 / FAX 03-6261-2971  
■所沢事務所  
TEL 04-2937-7344

## 熊本地震が警鐘を鳴らすものは何か?

一般の方は違和感を抱くかもしれませんが、建築基準法の耐震基準は、熊本地震のような「大規模な地震動では倒壊・崩壊はしないが、損壊はする」というレベルです。言い換えれば、「生命の安全は守るが、財産としての住居は壊れてもしかたない」としています。

建築基準法だけに頼れないとすれば、どうしたらよいでしょうか。

耐震等級3の住宅はほとんど被害がなかったため、熊本では耐震等級3の建物に建て替えを希望する人が大変多いそうです。

一方、NHKの報道特集でも取り上げられていたため、ご存知の方も多いと思いますが、「直下率と床などの水平構面の耐力」がバランスよく確保されていれば、必ずしも耐震等級をあげなくても地震に耐える建物が可能です。

直下率とは上下階の柱や耐力壁の位置が重なっている割合です。上限階で間取りがまったく同じならば直下率は100%となりますが、現実的には無理なため、そこで重要になるのが、上下階の耐力壁の力を伝える床の役割です。

本会が中心となって開発を進めてきたGA(グリーンエア)斜め張り工法は、構造用合板を張った床を上回る床倍率を達成しており、間取りの自由度を確保しながら耐震性を高めることが可能になります。



代表理事  
コーディネーター  
鈴木 進



## 見学会などのご案内

**築50年の店舗併用住宅 住み継ぐ家 大規模リフォーム完成見学会**

5月27日(土) 10:30~15:00 場所: 東京都杉並区



**所沢の木の家 完成見学会**

6月中旬 場所: 埼玉県所沢市

## コラム: 設計者の目

今回は、設計事務所・コウ設計工房の大沢宏さんのコラムです。

### 家相・風水について



大沢 宏

「家相、風水、気になりますか?・・・」

設計に入る前に、必ず建て主さんに問いかけます。

本人が気にならないと回答されても、「ご両親とかはいかがですか?・・・」と確認します。(同居に限らず)

- お施主さんもそのご両親も、全く気にしない・・・場合は、私も気にしません。
- 家相はよく解らないけど、悪くないような間取りがいい・・・という場合は、最低限の気遣いをして間取りを考えます。
- 風水が少し気になる・・・その程度なら、風水は気にしないように仕向けます。(後に説明します)
- 家相や風水にこだわる・・・こういう方の場合、その参考図書などを貸してもらいます。

もう20年も前ですが、かなり時間を掛けて基本設計が詰まってきたころ、家相が気になり始めた・・・ということで、最初に戻ってやり直したことがありました。設計の相談から完成まで、結局3年掛かりました。

その時に、家相についていろいろと勉強してみましたが、どうも施主とかみ合いませんでした。

その原因は、参考になっている本、資料が違っているのです。たとえばトイレの位置について、「悪い」「悪くない」「見方を代えれば問題なし」とか、著者などに寄って様々な回答があることが解り、お施主さんの購入された本を借りることにしました。

こんなことがあってから、必ず問いかけることにしましたが、お施主さんは気にしなくても、気にする親がいたら・・・最低限の「やってはいけないこと」は避けたほうが、不幸を生む可能性(心理的に)が減ります。

風水は、中国から渡ったというのはご存知だと思いますが、風水地理学が基本で「場所の気や住む場所の良し悪し」などを判断する為のものなのです。日本では、「Dr 何とか」という人が、30年ほど前に日本風にアレンジして広めたのが、日本の風水だと思います。

その書籍発売記念講演を聴きに行ったことがあるので、確かだと思います。

今ではその娘が後を継いでいます。私は全く信じません。

家相も中国から渡ったもので、やはり日本の気候風土に合わせてアレンジされているようですが、迷信や根拠不明の説があったり、書籍もたくさんあり、どれを選んだらいいのか、迷うところだと思います。

生活様式や考え方など、現代とは少し合わないところもあるので、やはり自分で判断するのが一番いいと思います。

